



昭和40年代の旧町内の様子  
(右端に消火栓が見えます)



消防車による給水作業 (昭和42年)

昭和30年代の旧町内の様子(右端に消火栓が見えます)

昭和30年代の旧町内の様子(右端に消火栓が見えます)

昭和30年代の旧町内の様子(右端に消火栓が見えます)

町村合併と伊豆急線開通  
昭和30年町村合併、昭和36年伊豆急線開通で観光客増、民宿、寮、ホテルの増加で給水量が増加し、本郷区画整理事業にも追い打ちをかけたりました。白浜地区の簡易水道計画、これは画餅に帰しましたが、田牛簡易水道が完成し、

町村合併と伊豆急線開通  
昭和30年町村合併、昭和36年伊豆急線開通で観光客増、民宿、寮、ホテルの増加で給水量が増加し、本郷区画整理事業にも追い打ちをかけたりました。白浜地区の簡易水道計画、これは画餅に帰しましたが、田牛簡易水道が完成し、

町村合併と伊豆急線開通  
昭和30年町村合併、昭和36年伊豆急線開通で観光客増、民宿、寮、ホテルの増加で給水量が増加し、本郷区画整理事業にも追い打ちをかけたりました。白浜地区の簡易水道計画、これは画餅に帰しましたが、田牛簡易水道が完成し、

町村合併と伊豆急線開通  
昭和30年町村合併、昭和36年伊豆急線開通で観光客増、民宿、寮、ホテルの増加で給水量が増加し、本郷区画整理事業にも追い打ちをかけたりました。白浜地区の簡易水道計画、これは画餅に帰しましたが、田牛簡易水道が完成し、

町村合併と伊豆急線開通  
昭和30年町村合併、昭和36年伊豆急線開通で観光客増、民宿、寮、ホテルの増加で給水量が増加し、本郷区画整理事業にも追い打ちをかけたりました。白浜地区の簡易水道計画、これは画餅に帰しましたが、田牛簡易水道が完成し、

こちらとしてみれば、将来を見据えて口径300ミリと考えていました。認可要件にも関わらず実際は300ミリで施行しました。結果的に、後々の給水量の増加は急激で、300ミリで施行したことは役に立ったと思います。

こちらとしてみれば、将来を見据えて口径300ミリと考えていました。認可要件にも関わらず実際は300ミリで施行しました。結果的に、後々の給水量の増加は急激で、300ミリで施行したことは役に立ったと思います。

こちらとしてみれば、将来を見据えて口径300ミリと考えていました。認可要件にも関わらず実際は300ミリで施行しました。結果的に、後々の給水量の増加は急激で、300ミリで施行したことは役に立ったと思います。

こちらとしてみれば、将来を見据えて口径300ミリと考えていました。認可要件にも関わらず実際は300ミリで施行しました。結果的に、後々の給水量の増加は急激で、300ミリで施行したことは役に立ったと思います。

こちらとしてみれば、将来を見据えて口径300ミリと考えていました。認可要件にも関わらず実際は300ミリで施行しました。結果的に、後々の給水量の増加は急激で、300ミリで施行したことは役に立ったと思います。

浄水場建設  
水道専門の設計事務所を求め、調査設計して工事に取り掛かりました。浄化方式や電気設備など、素人で何も分からず、ほとんど設計事務所にお任せです。

浄水場建設  
水道専門の設計事務所を求め、調査設計して工事に取り掛かりました。浄化方式や電気設備など、素人で何も分からず、ほとんど設計事務所にお任せです。

浄水場建設  
水道専門の設計事務所を求め、調査設計して工事に取り掛かりました。浄化方式や電気設備など、素人で何も分からず、ほとんど設計事務所にお任せです。

浄水場建設  
水道専門の設計事務所を求め、調査設計して工事に取り掛かりました。浄化方式や電気設備など、素人で何も分からず、ほとんど設計事務所にお任せです。

浄水場建設  
水道専門の設計事務所を求め、調査設計して工事に取り掛かりました。浄化方式や電気設備など、素人で何も分からず、ほとんど設計事務所にお任せです。

電探を使って  
河内水源が出来ても安心してはいられません。観光客増加で使用量が増大し、昭和28年、又もや水不足です。再び山に登り見当を付けて河内の松尾付近を探しました。

電探を使って  
河内水源が出来ても安心してはいられません。観光客増加で使用量が増大し、昭和28年、又もや水不足です。再び山に登り見当を付けて河内の松尾付近を探しました。

電探を使って  
河内水源が出来ても安心してはいられません。観光客増加で使用量が増大し、昭和28年、又もや水不足です。再び山に登り見当を付けて河内の松尾付近を探しました。

電探を使って  
河内水源が出来ても安心してはいられません。観光客増加で使用量が増大し、昭和28年、又もや水不足です。再び山に登り見当を付けて河内の松尾付近を探しました。

電探を使って  
河内水源が出来ても安心してはいられません。観光客増加で使用量が増大し、昭和28年、又もや水不足です。再び山に登り見当を付けて河内の松尾付近を探しました。

送水管の口径論議  
水道規模は水量で決まります。その水量は常住人口1人当たり何リットルかで決まります。町村合併の機運が高まり、海岸地帯への給水を計画し、なお、本郷地区の市街地化が見込まれるので給水人口を9,000人として総配水量を1,350トンと決め、設計に移りました。

送水管の口径論議  
水道規模は水量で決まります。その水量は常住人口1人当たり何リットルかで決まります。町村合併の機運が高まり、海岸地帯への給水を計画し、なお、本郷地区の市街地化が見込まれるので給水人口を9,000人として総配水量を1,350トンと決め、設計に移りました。

送水管の口径論議  
水道規模は水量で決まります。その水量は常住人口1人当たり何リットルかで決まります。町村合併の機運が高まり、海岸地帯への給水を計画し、なお、本郷地区の市街地化が見込まれるので給水人口を9,000人として総配水量を1,350トンと決め、設計に移りました。

送水管の口径論議  
水道規模は水量で決まります。その水量は常住人口1人当たり何リットルかで決まります。町村合併の機運が高まり、海岸地帯への給水を計画し、なお、本郷地区の市街地化が見込まれるので給水人口を9,000人として総配水量を1,350トンと決め、設計に移りました。

送水管の口径論議  
水道規模は水量で決まります。その水量は常住人口1人当たり何リットルかで決まります。町村合併の機運が高まり、海岸地帯への給水を計画し、なお、本郷地区の市街地化が見込まれるので給水人口を9,000人として総配水量を1,350トンと決め、設計に移りました。



実際に水源探しをしたときの写真



建設されたばかりの  
落合浄水場の様子



落合浄水場3周年記念撮影(真ん中が土橋さん)



水道課事務所を視察する  
石井町長(右が土橋さん)



市内の水道工事の様子です。懐かしい原風景が広がっていますね。

～土橋一徳さん略歴～  
大正14年10月生、西中在住  
昭和22年下田町役場入庁、その後水道、建設、企画財政、都市計画、総務課長を歴任。  
退職後は下田の郷土史の編さんに努めている。